

長尾欽弥・よね 年表

年	月	日	
1989 (M.22)	8	26	よね、後藤芳之助・志げ、の長女志か、の次女として生まれる(私生児)。大正9年から昭和8年の間に田中光顕が実子として認知。
1992 (M.25)	7	23	長尾欽弥、京都五條富の小路で生まれる。父は米屋を営む理兵(養子)、母はみつ子。幼児期に米屋が倒産し一家離散、横浜で雑貨商を営む叔父の養子となる。成人後製薬を手掛け、中国人向けの化粧水を売る会社博仁房を上野寛永寺に設立、合わせニキビがとれ、色が白くなる薬「ベーリン」の通信販売を行う。後にアスピリンを国産化するが大正
1908 (M.41)			よね19才の頃、京都の土木技師川田亦治郎と東京に駆落ち。
1914 (T. 3)			第一次世界大戦勃発、1918年(大正7年)に終戦。
1919 (T. 8)	2	11	よね、31才で清実を出産、届出は東京牛込区神楽町2丁目。
1920 (T. 9)			長尾欽弥、アスピリンを国産化し製造販売していたが恐慌で倒産。
1926 (T.15)			よね、長尾欽弥と出会う、よね38才、欽弥35才。 この頃より、長尾欽弥・よね・川田亦治郎はビールの絞りかすに含まれる酵母菌に着目し、総合保険薬(栄養剤)の開発に着手、原料はドイツから輸入したビールの絞りかす。
1928 (S. 3)			酵母菌を利用した栄養剤「若素(わかもと)」が完成、発売元を「栄養と育児の会」とする。最初の工場は芝大門脇の浄運院の倉庫。薬事法上の許可申請者は川田よね、後に合資会社とするが、代表もよねが努めた。後に株式会社となり、長尾欽弥が社長に就任、川田亦治郎が出納
1929 (S. 4)	4		若素発売開始。同年7月号の婦人倶楽部上に農学博士澤村真の署名記事つきで若素の大宣伝を行い、事業は急速に拡大する。
	4	14	田中光顕常陽明治記念館創立。明治天皇ご尊像除幕式、長尾欽弥後に副会長となる。
		10	大恐慌 長尾よね、この頃より骨董に傾注。
		12	よね・川田亦治郎離婚届けを提出
1930 (S. 5)			若素大当たりとなり、世田谷桜新町で長尾本宅の建造に着手。専属料理人は加藤彌三郎、茶道頭は鈴木宗保。
	4		田中光顕多摩聖蹟記念館を建設・開館。長尾欽弥多摩聖蹟記念会を組織し副会長を務める。
1931 (S. 6)			鎌倉山で別荘扇湖山荘の建造に着手 国内の販売製品名を「若素」より「わかもと」に変更、満州では若素を継続。この頃の社屋は芝公園11号地、工場は世田谷砧(きぬた)。
	5		東京美術倶楽部で行われた説田家の入札で中国古代の「れき」という三本足の銅器を購入。

1931 (S. 6)	6	長尾よね、東京美術倶楽部で行われた柿沼家の売り立てで、仁杉家の雛道具を購入。
1932 (S. 7)		<p>大津唐崎で別荘隣松園の建造に着手、造園は七代目小川治兵衛)とその甥岩城巨太郎、建築は数寄屋師木村清兵衛。</p> <p>寿屋の宣伝企画担当土屋健を宣伝部に迎え、自社広告の企画、制作を強化する。</p> <p>長尾よね、本間順治の指南により南北朝時代の左文字の短刀を購入。この刀は後に国宝となる。</p>
1933 (S. 8)	6 26	東京美術倶楽部で野々村仁清の壺「色絵藤花文壺」を19万8千円で購入、本壺は後に国宝となり、現在熱海のMOA美術館が所蔵。
	12	長尾欽弥・よね結婚届を提出。
1934 (S. 9)		<p>扇湖山荘完成</p> <p>隣松園完成</p>
1935 (S.10)		長尾欽弥、国内で購入した石灯籠が朝鮮の国宝仏国寺舍利塔であることが判明、所蔵元であった慶州仏国寺に返還する。現在宝物第61号。
1936 (S.11)		長尾欽弥名で所蔵染織品の秀作を集めた豪華美術図書「錦羅聚秀」(きならしゅうしゅう)を作成、関係者に配布。
	4 9	10月12日まで長尾欽弥・よね、アメリカ経由でドイツを訪問、滞在中にヒトラーに謁見する。
1937 (S.12)	2	川喜多半泥子、扇湖山荘で野々村仁清の「色絵藤花文壺」を検分、長尾よね魯山人の手料理でもてなす。
	6	第一次近衛内閣発足
	7	盧溝橋事件勃発、戦線の拡大と共に「わかもと」の軍への納入が増大する。当時世田谷砧工場の行員数は1,000人以上、他大阪、天津、上海に工場があり、京城、台北、北京、南洋に支社があった。
	9	<p>長尾欽弥「経済マガジン」9月号に署名記事「私が今日の地位を築きあげるまで」を発表。</p> <p>長尾よね、この頃より星岡茶寮を追放された北大路魯山人の後援をするようになり、作品をノベルティ用に依頼する。</p>
1938 (S.13)	10	ヒトラー・ユーゲント隣松園を訪問。
1939 (S.14)	4	長尾欽弥北支那方面の視察旅行を行う。
1940 (S.15)	7	第二次近衛内閣発足
	9 27	<p>日独伊三国同盟締結</p> <p>「わかもと」の売行が頂点の年間1千万本に達した。この時期、長尾家の収入は推定日に2万円、年間720万円。</p>

1940 (S.15)			わかもと本舗は敷地3,000坪の長尾研究所を設立、藪田貞治博士などを研究員として、主に微生物の研究を委託した。
1941 (S.16)	7		第三次近衛内閣発足
	12	8	大東亜戦争勃発
1942 (S.17)			「わかもと本舗」は軍の監督工場となり製品の殆どは軍納となる。
1943 (S.18)	3		長尾宜雨荘名で所蔵染織品の秀作を集めた美術図書「時代衣装図録」を作成、関係者に配布。 会社名を「わかもと製薬株式会社」に変更。 長尾よね、築地の料亭田川を購入、専用倶楽部として使用。
1944 (S.19)			川田清実、補充兵として海軍に招集される。 長尾よね、武原はんが芸者を廃業し舞踏家に転向する際、衣装代の借金を肩代わりする。 芝公園の本社が空襲で焼失(本社は戦後丸ビルに假事務所を置き、その後木挽町に移転)。美術品を扇湖山荘の地下倉庫に移設する。
1945 (S.20)	5	9	ドイツ降伏
	8	15	日本降伏、大東亜戦争終結
	12	11	夜、近衛文麿が長尾本宅に側室「山本さん」、娘斐子(当時20才ぐらい)と入り、15日夕刻まで滞在。16日未明、荻窪西田町の本宅にて服毒自
1946 (S.21)	5	23	長尾欽弥、税務対策のため財団法人長尾美術館(扇湖山荘)を設立。
	10		横浜伊勢佐木町亀楽煎餅の長谷川亀楽の三男武雄と養子縁組
1947 (S.22)	11	4	長尾欽弥、国立博物館評議委員会評議員となる。
1949 (S.24)	5		「わかもと製薬株式会社」が東京証券取引所に上場(二部)される。
	8	11	「わかもと製薬株式会社」業績不振により「東洋醸造」の子会社化を模索、合併の障害となった取締役社長長尾欽弥が辞任させられる。
1950 (S.25)	11		「わかもと製薬株式会社」と「東洋醸造」の合併工作が破綻。「わかもと製薬株式会社」は日銀より派遣された新社長牧田鈿市のもと単独再建
1951 (S.26)			長尾欽弥、株式会社ナガ製薬を長尾研究所の敷地内に設立、駆虫剤「アスキン」を発売。
1952 (S.27)			ナガ製薬工場で爆発事故が発生、翌年倒産。
1953 (S.28)	10		茨城県立美術館で「長尾美術館特別展示」が開催される。
1955 (S.30)			桜新町の本宅を坂内ミノブに6千万円で売却。以後10年間、夫妻は都内の高級住居を転々とする。

1955 (S.30)			この頃より長尾美術館所蔵美術品の流出が始まり、野々村仁清の「色 絵藤花文壺」は世界救世教に移る。 扇湖山荘の麓を構成する前庭、裏庭、周囲の山々が売却され、その殆 どが宅地化された。
1958 (S.33)			秋、白州正子が扇湖山荘に長尾よねを訪ね、聞き取り調査を行う。翌 年「女傑」として纏められ、小説新潮2月号に掲載。
1963 (S.38)			世田谷の元長尾本宅解体、都立深沢高等学校が建設される。
1964 (S.39)			川田亦治郎死去(85才)
1965 (S.40)			長尾よね、糖尿病が悪化、眼が不自由となり扇湖山荘に落ち着く。 この頃までに長尾美術館の所蔵品は染織品(重要文化財3点を含む)を 除き、殆どが散逸したと考えられる。
1967 (S.42)	2	8	長尾よね扇湖山荘にて死去(79才)、甥桑田金三が遺骨を京都五条西 大谷廟の長尾家の墓に葬る。
1968 (S.43)	10	1	長尾美術館の理事長に青柳峻が就任、財団は合法的に売却されたも のと考えられる。
1969 (S.44)			これより暫くして、染織品の殆どはカネボウの所蔵となったが、合法的 移管であったのかは不明。
1970 (S.45)			大林組が扇湖山荘を取得。その後料亭「鎌倉園」として営業するが数年 で廃業。この頃所有が三和銀行に移り、後に研修所として使用
1980 (S.55)			長尾欽弥死去(89才)
1987 (S.62)	1		新潮社より長尾よねの生涯を描いた「当世畸人伝」(白崎秀雄著)が出 版される。本書は脚本化され「夢の宴」として公演されることになる。
1988 (S.66)			帝国劇場で長尾よねの生涯を描く「夢の宴」が公演される。主演は森光 子、夫の欽彌役に小林桂樹、近衛文麿役は芦田伸介、脚本は小幡欣
1992 (H. 4)	7		伊賀上まりがかつて長尾美術館が所蔵した仁杉家の雛道具を溜池の 骨董店南蛮堂より購入。
1996 (H. 8)	11		青柳峻死亡に伴い、山田敏夫が財団法人長尾美術館理事長に就任
2002 (H.14)			東京大学建築学専攻鈴木研究室が扇湖山荘を調査。
2006 (H.18)			日本建築学会近畿支部が隣松園の建造物を調査。 隣松園解体、宅地となる。
2007 (H.19)	2		カネボウの解散(倒産)に伴い、「鐘紡繊維美術館」が閉館。旧長尾美術 館所蔵の能装束類(含重要文化財3点)は文化庁が購入し国立施設に 移され、小袖、裂類は女子美術大学が購入した。
2010 (H.22)	10		扇湖山荘が所有元である三菱UFJ銀行(元三和銀行)より鎌倉市に寄贈 される。